



先行馬と差し馬



sanukisoba

なぜか知らないが学部生の頃から年頃の若い娘さんに恋愛相談的なものを持ちかけられることが多かった。ありがちな相談は「好きになった人がいるが、その人には付き合っている人がいる。どうしたらいいのだろう」というもの。これについて僕の答えは常にひとつ「奪えば？」だったのだが、最近年齢的にも迂闊にそんなこといえないなあと思い始めた。不倫はだめですよ不倫は。

こういうことを言い始めるようになったらもうオジサンだな。私がオバさんになってもは歌えない年齢となりつつあります。

さて、合コンで美味しい思いをする”勝者”は2パターンに分類できることをご存知だろうか。「先行逃げ切り型」と「差し馬型」である。

読んで字のごとくなのだが、前者は序盤から突っ走って勝者の地位を獲得しそのままその地位を維持して終了まで持ち込むタイプ、後者は前半はおとなしくしているが中盤以降に勝者を狙える地位に躍り出てゴール時点で勝者となるタイプ。ところで勝者とは何か、の定義は置いておきましょう。大人どうし暗黙の了解ということで。え？わからない？わからせてあげるので女性の方はどうぞご連絡を。男性の方はお父様にでも尋ねてみてください。

この話は合コンだけにとどまるものではない。たとえば大学のクラスでもサークルでもお勤めの会社でもいい、具体的に自分が属した集団を思い出していただければよいのだが、どこの集団にも先行逃げ切り型と差し馬型はいる。

初顔合わせの時点から「よろしくねー」とリーダーのような振る舞いをして場を盛り上げるタイプ、一方、知り合ってから当面はおとなしくしていて目立たないのだが、時間が経つにつれ「あれ・・・こいつ面白いんじゃない？」と評判を高めていって気付けば集団の中心的な存在になっているやつ。

——もちろん合コンで勝てない人間がいるように特に目立たず集団にいつづけ、そして去っていく者もいて、これが一番多いことはあえて言うまでもない——

どちらが優れていてどちらが劣っているという話ではない。だが、先行馬が差し馬に敗れて集団での地位を失うことというのは案外多い。そして、こうした場合の先行馬は大抵惨めな立場に置かれるものである。

先行の性質として、事務的な取りまとめ役を任せられることが多い。これは当然である。知り合った頃からやれコンパだやれ宴会だ、やれ親睦会だと幹事的なポジションで地位を確立していったのであり、いまさら幹事を引き受ける物好きもいないから先行の者は地位を失っても依然として幹事なのである。そう、幹事は、差し馬がスポットライトを浴びるステージの設営だけの存在

に成り下がるのだ。これはとても惨めな話ではないか。

皆さんの周りにもいませんか？先行馬と差し馬。あ、自分は差し馬だ、と気付いた方。先行馬への配慮を忘れてはいけませんよ。

一般的に「リア充」と呼ばれるような方は先行馬さんが多いんじゃないのかな、と僕は思っています。

ただ、差し馬タイプにはかなり味わい深い方が多いのも確かですよ。先行馬ってのは一瞬で評価を得なければ仕方ないからわかりやすいんですよ、比較的。わかりやすい明るさと、わかりやすい面白さを備えた人間が先行馬には向いています。一方でそうした先行馬に対抗しうる差し馬に求められるのは奥深い味わい。先行馬が初速の勝負だとしたら差し馬に求められるのは最高速ですからね。

なもんで差し馬になる人間ってのは変な面白さのある人間が多い（気がする）。卵が先か鶏が先かの話で行けば、わかりにくい面白さだから差し馬にしかねないともいえる（のかもしれない）。有名な例で行けばさまぁ〜ずの大竹さんなんかは典型的な差し馬タイプだったらしいですね。いや、さまぁ〜ず自体が差し馬タイプといえそうですが。

こういう書き方をするとバレバレだとは理解しているんですが、僕は圧倒的に差し馬が好きなタイプです。先行馬さんを見ると「うう...ちょっとほっといてほしいなあ」と思ってしまう。僕の好みはどうでもよろしい。

ただ、差し馬タイプを見つける楽しみってのを覚えると人間関係の幅は広がりますよ。これは断言できます。

この話って恋愛にも応用はききますよね、といいますか、あなたがアン・ハサウェイやショーン・コネリーでもない限り先行馬にはなれないわけで、あなたが恋愛を成就させようと思ったら差し馬タイプになるしかないのですよ。

じゃあ、どうすればいいかっていうとそりゃ自分の魅力を把握して、最大限にそれを発揮した上で相手にそれを伝える他ないでしょうね。そういう意味で、露出を増やし行動半径を広げることが必要だと僕は思うのです。

そして、冒頭に書いたような相談をしてくる子に対して僕はいつも、ここまで書いてきた内容をそっくりそのまま話しているのです。恋愛も人間関係の形態のひとつですからね。